

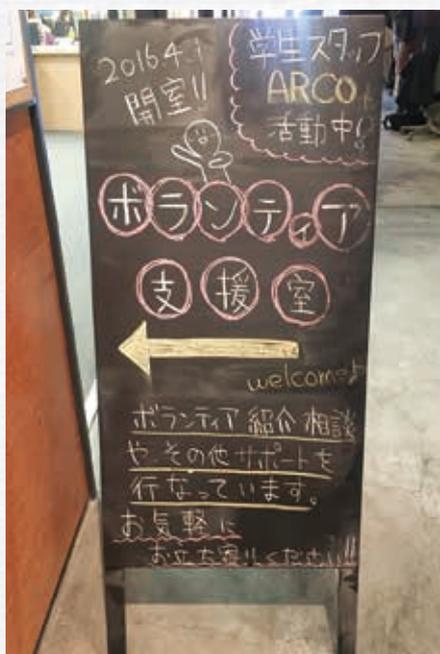
であう。つながる。ひろがる。



同志社大学ボランティア支援室

活動報告書

2018



同志社大学 学生支援センター

ボランティア支援室

Support Office for Student Volunteer Activities



ボランティア支援室長
上田 雅弘

1. はじめに

本学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育とともに、キリスト教に基づく徳育を重視しています。その徳育の一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援し、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月にボランティア支援室を開設し、3年目を迎えました。

ボランティア支援室は、ボランティア情報の収集や学生への情報提供をはじめとして、ボランティア活動への学生の参加促進、学生のボランティア活動に関する助言、ボランティアセミナーや講習会の開催等を行っています。また、学内外のボランティア団体等との連携・協力によりネットワークを構築し、学生のボランティア活動の場を広げるとともに、地域社会と大学をボランティアの心でつなぐことを目指しています。

2. 学生の思いを受け止める組織

ボランティア支援室は、学生の「ボランティア活動をしたい」という強い気持ちに寄り添い、その思いを受け止めて、社会と関わる一歩を踏み出す応援をするために発足しました。ボランティア活動を軸とした学生生活の過ごし方を一つの選択肢として提示することは、学生の可能性や成長を支援するという面において、非常に重要なことだと考えています。

2018年は6月に大阪府北部地震が、また7月には平成30年7月豪雨が発生するなど、多くの自然災害に見舞われた年となりました。災害発生後には多くの学生から「被災地の復興のためにできることをしたい」との要望が寄せられ、その思いを受けて両被災地に対する義援金募金活動を実施しました。延べ70名を超える学生が、40℃に迫る酷暑にも負けずキャンパスで声をあげ、集まった募金を日本赤十字社を通じて被災地に届けました。また2016年に締結した「大学のまち京都災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」のもと、京都市内5大学と京都市社会福祉協議会との協働により、被災地でのボランティア活動を行う機会を得て、本学の学生も京都府宮津市、岡山県倉敷市真備町にて復興支援活動に携わりました。これらの経験を通じ、学生の「被災地のために」という想いを組織として受け止め、活動に繋がられたことの意義を改めて実感しております。

3. 本学のボランティア支援室の特長

本学の学生支援センターでは、2008年度から3年間実施された文部科学省の学生支援GP「地域コミュニティによる学生支援方策～京町家を拠点とした異世代協同プロジェクト」をはじめ、学生が地域社会の中で様々な立場や世代の方々とはふれあい、多様な価値観と出会うことによる成長に焦点をあてた様々な正課外プログラムを実施してきました。こうした従来からの取り組みを活かし、ボランティア支援室は、今出川キャンパスが立地する京都市上京区を中心とした地域連携におけるボランティア活動の活発化を目指すことを一つの柱としています。具体的には、上京区役所、上京区社会福祉協議会の全面的なバックアップを得ながら、「同志社つながる@カフェ」を基幹事業として開催し、地域と学生の出会いの場を創出しています。

さらに、学生の自主性を尊重する学生主体の支援室を目指して、支援室では「地域と共に」をスローガンに、本学学生のボランティア活動の活性化を目的として、ボランティア情報の発信・紹介や、ボランティアイベントの企画・運営などを行う学生スタッフ「ARCO」を置いています。また、本学に所属するボランティア団体のさらなる活性化を目的とした学内ボランティア団体横断型ネットワークとして、同志社ボランティアネットワーク（通称 V-NET）を今出川と京田辺の両校地に設置し、ボランティア支援室が開催する情報交換会で、日頃の活動や組織運営について意見交換を行うとともに、連携プログラム等を行っています。

4. おわりに

2016年4月の設立以来、ボランティア支援室には学外のボランティア団体様から多くの情報が寄せられ、これまでに225もの団体様に登録をいただきました。今後もボランティア支援室が、学生と地域の方々をつなぐ拠点として発展していくことを願うとともに、皆様のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

目次

1. ボランティア支援室長 挨拶	1
2. ボランティア支援室について	
理念・目的／活動内容／現在加盟しているネットワーク等／ボランティア支援室主催事業 2018 年度／	
ボランティア支援委員会委員	3
来訪者数／本学学生のボランティア活動状況・受入に関するアンケート	4
3. ボランティア支援室実施・参加事業	
■災害・防災・復興支援	
大阪府北部を震源とする地震災害及び平成 30 年 7 月豪雨災害にかかる義援金募金活動	5
京都市総合防災訓練 災害ボランティアセンター 運営ボランティア／大学生版 災害ボランティア講座	6
■地域連携・活性化	
同志社つながる@カフェ	7
和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	8
田舎の生活を体験！宿泊型スタディツアー in 笠置町&南山城村	9
■障がい	
ちよいボラ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう～	10
■子ども	
寒梅館夏祭り	10
1 日体験ボランティアプログラム「梅小路公園で子どもたちと昔遊びをしよう！」／	
四季体感イベント～スタンドグラス風写真立てを作ろう～／	
1 日体験ボランティアプログラム「こども食堂でこどもと一緒に過ごそう！」	11
■環境	
祇園祭ごみゼロ大作戦！／1 日体験ボランティアプログラム「上粕の美しい竹林を取り戻そう！」	12
■国際	
NICE 国際ボランティアセミナー～国際ボランティアってどんなの？～／	
JICA 国際ボランティアセミナー～青年海外協力隊ってどんなの？～	13
■講演会、講習、セミナーなど	
ボランティア入門講座～ボランティアって何だろう？～／【スキルアップ講座】 Vol.3 企画のつくり方講座／	
【スキルアップ講座】 Vol.4 新メンバーを引きこむ団体づくり	14
4. 学生組織	
■ボランティア支援室学生スタッフ ARCO	
代表挨拶／新入生歓迎イベント／「突撃ボランティア支援室」「出張ボランティア支援室」／合宿	15
研修／OBOG 会／大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 2019／2018 年度活動実績	16
■V-NET	
新歓交流イベント@今出川～同志社でボランティアをしよう～／ボランティアフェア～V-NET 新歓交流会 2018～／1 日体験入部	17
V-NET 交流会／V-NET トークライブ／同志社ボランティアネットワーク ウィンターフェス	18
(今出川) 国際居住研究会／学生団体 CHAD／学生団体 LUCKY／同志社ヒーローショー同好会／Shinmachi Activate Project	19
STUDY FOR TWO／ASUVID 今出川／同志社 FAST／同志社ワーキングコーラス	20
(京田辺) スポーツボランティア団体 Egg／Global Baton for Ishinomaki／そら／同志社生涯スポーツ研究会～DUAL Sport～	21
PAZ MUSICA／ASUVID 京田辺／たなっぶす	22

ボランティア支援室について

理念・目的

同志社大学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育とともに、キリスト教にもとづく徳育を重視してきました。その徳育の重要な一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援することにより、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月に開設しました。

ボランティア支援室は、学生の成長への支援と同時に、その活動を通じて、大学が地域社会の一員としての責任に添えていくことを念頭に活動します。

活動内容

- ボランティア情報の収集及び学生への情報提供
- ボランティア活動への学生の参加促進
- ボランティア活動に参加する学生への助言と支援
- ボランティアセミナー、講習会等の実施
- 学内外のボランティア団体等との連携・協力

現在加盟しているネットワーク等

① 関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会

大学ボランティアセンターのあり方を検討し、大学ボランティアコーディネーターの専門性向上とセンターの存在価値を高め、認知度向上をめざす連絡会。年間4回程度の会議を行っている。加盟団体数は15団体。

② 大学間連携災害ボランティアネットワーク

東日本大震災を機に大学間で効果的かつ有意義な取り組みができるか考える組織として結成。学生同士のネットワークも築き上げて、学生ならではの知恵と企画力を発揮する場も構築。現在は大学間連携による学生ボランティア活動を柱として、日本全国の109校とネットワークを構築している。

③ 大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ

京都市内で災害が発生した際、大学生が災害ボランティアセンターの設置・運営、また、京都市外で災害が発生した際は、災害ボランティア活動などのリーダーとしての役割を協働で行なっていき「大学のまち京都」としての特性を生かした取組を行っていくもの。現在京都市内5大学と京都市社会福祉協議会で構成。

ボランティア支援室主催事業 2018年度 今出川校地：[今] 京田辺校地：[京]

月	日	タイトル・内容	参加者数	場所
4	5	V-NET新歓交流イベント@今出川～同志社でボランティアしよう！～	58	[今]良心館306教室
4	24	ボランティアフェア～V-NET新歓交流会2018@京田辺～	63	[田]ローム記念館劇場空間
5	23	第11回同志社つながる@カフェ あなたの知らない祇園祭～祇園祭のごみってどうなるの？～	6	[今]良心館105教室
5	26	1日体験入部(同志社生涯スポーツ研究会～DUALSport～)	2	大住児童館
6	2	[体験ボランティアプログラム第5弾] 和東のお茶を守ろう!茶畑ボランティア	6	相楽郡和束町
6	26	V-NET交流会	35	[田]多目的ホール
6-7	20	NICE国際ボランティアセミナー～国際ボランティアってどんなの？～	16	[今]良心館413教室 [田]知真館3号館115教室
7	2	JICAボランティアセミナー～青年海外協力隊で海外へ行こう！～	14	[今]良心館208教室 [田]知真館1号館211教室
7	3	第12回同志社つながる@カフェ 身近に潜む国際問題～異文化理解でよりよいまちへ～	5	[今]良心館302教室
7	14-16	平成30年7月豪雨災害被災地ボランティア	1	宮津市
7	15-16	祇園祭ごみゼロ大作戦!	51	四条烏丸周辺
7	25	大阪府北部を震源とする地震災害 平成30年7月豪雨災害 義援金募金活動ボランティア説明会	[今]4 [田]2	[今]良心館403教室 [田]知真館1号館106教室
7-8	26	大阪府北部を震源とする地震災害 平成30年7月豪雨災害義援金募金活動	のべ 77	両校地
8	9	ボランティア入門講座～ボランティアって何だろう?～	6	[今]良心館207教室
8	10	平成30年7月豪雨災害被災地ボランティア	各1	岡山県倉敷市真備町
9	1	京都市総合防災訓練 災害ボランティアセンター 運営ボランティア	5	太秦小学校(京都市総合防災訓練会場)
9	3	1日体験入部(Global Baton for Ishinomaki)	3	[田]新別館第10会議室

月	日	タイトル・内容	参加者数	場所
9	18	宿泊型モニターツアー-in笠置町&南山城村	13	相楽郡笠置町・南山城村
9	20	[スキルアップ講座] Vol.3企画のつくり方講座	18	[田]恵道館202教室
10	3	V-NETトークライブ	44	[田]ローム記念館劇場空間
10	5	1日体験入部(PAZMUSICA)	7	[田]成心館204会議室
10	20	1日体験入部(同志社生涯スポーツ研究会～DUALSport～)	1	大住児童館
10	20	[体験ボランティアプログラム第6弾] 和東のお茶を守ろう!茶畑ボランティア	5	相楽郡和束町
10	27	1日体験ボランティアプログラム 梅小路公園で子どもたちと昔遊びをしよう!	9	梅小路公園
10	29	1日体験入部(Global Baton for Ishinomaki)	3	[田]新別館第10会議室
10	30	第13回同志社つながる@カフェ 知られざる京町家の秘密～京町家がなくなる?～	7	今原町家(京都市上京区)
12	8	1日体験ボランティアプログラム 上狛の美しい竹林を取り戻そう!	7	木津川市山城町才五郎谷
12	9	1日体験入部(同志社FAST)	1	梅小路公園
12	10	第14回同志社つながる@カフェ 京料理のソウナカ～京料理と地域の意外なつながり～	9	今原町家(京都市上京区)
12	17	1日体験入部(スポーツボランティア団体Egg)	1	[田]新別館第10会議室
12	19	V-NET交流会[初一回企画クリスマスレク]	33	[田]新別館第10会議室
1	11	大学生版災害ボランティア講座(実践講座)	1	[今]良心館406教室
2	16	同志社ボランティアネットワーク「ウインターフェス」	地域の 方18 学生 12	[田]多々羅キャンパス体育館
2	27	1日体験ボランティアプログラム ごとも食堂でごともと一緒に過ごそう!	4	京田辺市立中部住民センター
3	5	[スキルアップ講座] Vol.4新メンバーを引きこむ団体づくり	15	[今]良心館105教室
3	17	[体験ボランティアプログラム第7弾] 和東のお茶を守ろう!茶畑ボランティア	7	相楽郡和束町

ボランティア支援委員会委員 (2019年3月現在)

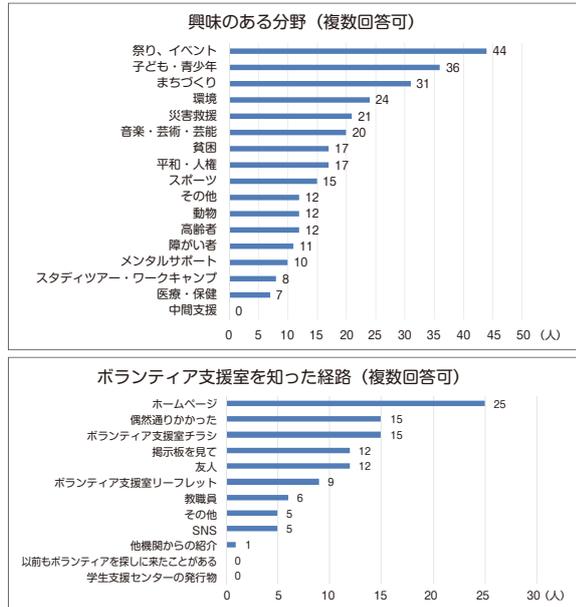
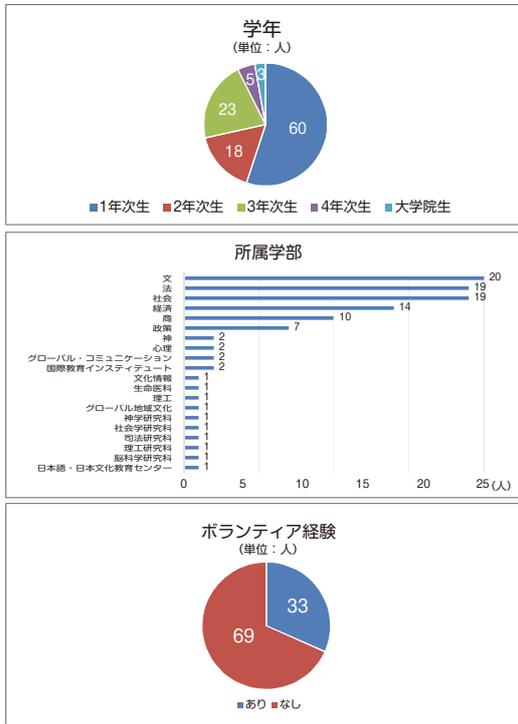
氏名	役職
上田 雅弘	ボランティア支援室長(委員長)
横井 和彦	キリスト教文化センター所長
関谷 直人	神学部 教授(学識経験者)
永田 祐	社会学部 教授(学識経験者)
井上 真琴	学生支援機構事務部長 今出川校地学生支援課長
太田 博之	京田辺校地学生支援課長

ボランティア支援室 (2019年3月現在)

氏名	所属
河合 良彦	今出川校地学生支援課 係長
大澤うらら	京田辺校地学生支援課 係長
今津 祐亮	今出川校地学生支援課
高橋あゆみ	今出川校地ボランティアコーディネーター
齊藤 由華	京田辺校地ボランティアコーディネーター

ボランティア支援室 2018 年度来訪者数（ボランティアシート受付数）113 名

ボランティア支援室では、ボランティア活動を希望する学生に対し、窓口にて相談対応を行っている。相談者に応じたボランティア活動をコーディネートできるよう、ボランティアシートにて情報を把握し、スタッフ内で共有している。



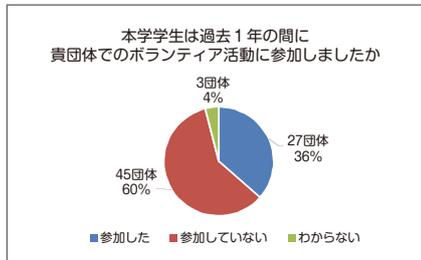
前年度（2017年度）の来訪者数は112名と、ボランティア支援室へ来訪した人数には変化がなかったが、1年次生の来訪者数が前年度34名に対し、2018年度は60名と増加した。一方で、「以前もボランティアを探しに来たことがある」学生は0名という結果であり、最初の来訪をきっかけに何度も窓口へ足を運んでもらえるようにすることが課題である。
興味のある分野においては、上位4項目の順番は前後しているが概ね昨年度と同様であった。一方で、2018年度においては、「災害救援」への関心が高まっており、大阪府北部地震や平成30年7月豪雨災害等、関西地域において災害が続いたことが影響していると考えられる。

本学学生のボランティア活動状況・受入に関するアンケート

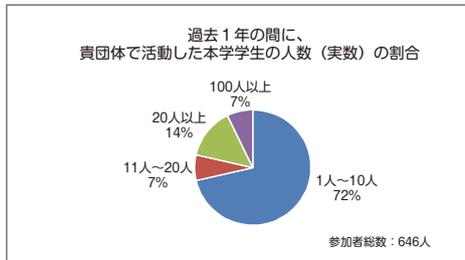
【概要】本学に登録されているすべてのボランティア募集団体を対象に、当年度における本学学生の活動状況の把握やボランティア支援室への意見収集を目的に、年に1度実施しているアンケート調査。

【調査方法】電子メールにてアンケート用紙を送付・回収。

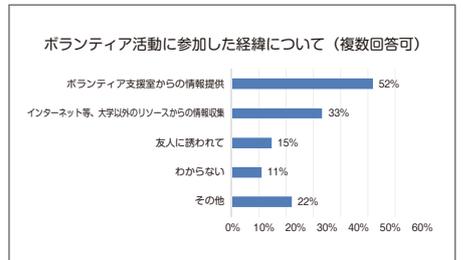
2018 年度 回答：75 団体（全 227 団体中） 回答率：約 33% 回答期間：2019 年 2 月 28 日～ 4 月 12 日



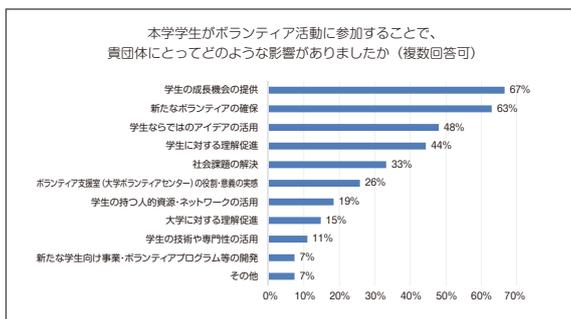
前回調査（2017 年度）と比較すると、「参加した」と答えた団体数には変化がなく、「参加していない」と答えた団体数が増加している。ボランティア支援室に登録している団体数が着実に増加していることから、本学学生にボランティアとして参加して欲しいという期待が高まっている。



前回調査（2017 年度：327 名）と比較して、2018 年度は 646 名と参加者総数が大幅に増加しており、ボランティア活動に参加した学生が増加していることがわかる。また、100 人以上の参加があった団体については、前年度に引き続き、ボランティアサークルの定期的な活動参加によるものであり、登録団体と継続的な関係を築いていることがうかがえる。また、ボランティア支援室主催事業として参加している、約 2000 人の市民ボランティアが参加するお祭りボランティアに本学の学生も参加しており、多くの学生がボランティアを経験することにつながったと考えられる。



前回調査（2017 年度）に引き続き、最も多い回答が「ボランティア支援室からの情報提供」である。割合については、前年度に比べ 4% 減少しているため、ボランティア支援室からの情報提供をより多くの学生に伝えるよう、工夫することが重要であると考える。



前回調査（2017 年度）と比較すると、「学生の持つ人的資源・ネットワークの活用」が 29% 減少したことが最も大きな変化であった。次いで、「新たなボランティアの確保」が 18% 減少した結果となった。ボランティアに参加する総数は増加しているが、継続的な参加など、学生の参加による広がりが少ないと考えられる。

【ボランティア支援室に対する意見】

- ・学生へのアプローチが難しい中、本センターとしては貴大学ボランティア支援室の存在を心強く感じている。
- ・若い学生が来てくれた事によって、当会のボランティアたちが喜んで活気づいた。
- ・貴校の学生ボランティアが積極的に活動に関わり、常に意欲的であったことがよかった。
- ・メール配信やチラシ等で当方の事業をご案内いただけることが、大変ありがたい。
- ・社会課題解決に熱心な学生たちと出会って一緒に活動できたことがよかった。
- ・新しい出会いをいただけたことが何より良かった。
- ・ボランティアを募集する際の窓口が明確なので、スムーズに依頼をすることができている。

大阪府北部を震源とする地震災害及び平成 30 年 7 月豪雨災害にかかる義援金募金活動



7月26日(木)～8月8日(水)に、大阪府北部を震源とする地震災害及び平成30年7月豪雨災害にかかる義援金募金活動を実施しました。期間中は、平日のお昼休みに今出川キャンパスの良心館前と図書館前、京田辺キャンパスの多目的ホール前にて、ボランティアによる呼びかけ活動を行いました。

両校地合わせて、のべ77人の学生が募金活動のボランティアとして参加しました。寄せられた募金の総額は、70,392円*となり、全額を日本赤十字社へ寄付しました。

猛暑の中、またテスト期間中のため人通りが少ない中でも、活動中は積極的に声掛けを行う学生の姿が見られ、多くの方にご協力いただきました。募金にご協力いただいた皆様、あたたかいご支援に感謝いたします。

* 募金総額の内訳：大阪府北部を震源とする地震災害 (25,309円)
平成30年7月豪雨災害 (45,083円)



【学生レポート】

政策学部政策学科2年次生 中務 元貴

大阪府北部地震及び7月西日本豪雨災害により、被害を受けた方々のために少しでも支援ができればと思い、この活動に参加しました。私達が呼びかけることで、足を止めて協力して下さる方々を見て、私達の行動が被害を受けた方々だけでなく、被害を受けた方々のために何かしたいと考えていた人の力になることができたと感じ、小さなことでも行動することに意味があると感じました。

【学生レポート】

理工学部インテリジェント情報工学科2年次生 村瀬 晃

2018年7月に、大阪府北部地震と平成30年7月豪雨災害募金活動を京田辺キャンパスで行いました。実際に現地にも行き、復興ボランティアとして活動も行いましたので、被害地域が少しでも早く復興してくれることを願うばかりです。

ボランティアに参加したことがない人でも、復興に向けて力添えすることはできます。その方法の一つとして募金があると思います。「自分に起こったことではないから」と他人事にするのではなく、「自分にも何かできないか」と考えることが必要ではないでしょうか。「情けは人のためならず」という言葉にもあるように、何かをすれば、回りまわって自分に何かしらもたらされるかもしれません。そういう気持ちも忘れずに、募金活動を始めとするボランティア活動に、より多くの人に参加してもらいたいと活動を通じて感じました。

京都市総合防災訓練 災害ボランティアセンター運営ボランティア



9月1日(土)に開催された京都市総合防災訓練に、本学から5名の学生が参加しました。これは毎年京都市内で行われている大規模な防災訓練で、「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」の取り組みの一環として、太秦小学校を会場に行いました。

学生参加者はまず右京区社会福祉協議会に集合し、大規模な地震が発生したとの想定で、案内なしで主会場となる太秦小学校へ向かうことから訓練が始まりました。小学校到着後は、災害ボランティアセンターの運営ボランティアを行いました。ボランティアの助けを必要とする住民からのニーズの聞き取りや、作業に必要な備品の貸出、活動を終えたボランティアからの聞き取りなど、実際の活動の流れを疑似体験することで、災害ボランティアセンターの役割や活動内容についての理解を深めることができました。こういった訓練への参加を通じ、いざ実際に災害が発生した際に主体的に行動できる学生が増えていくことを期待しています。

【学生レポート】

文学部文化史学科3年次生 畑山 智花

災害の多い日本だからこそ、災害ボランティアを経験しておきたいと考え参加しました。正直なところ、被災地に行って助けたいという想いがありさえすればいいと思っていました。もちろん大前提として想いがあるのは大切なことですが、どれだけ被災された方の気持ちに寄り添った活動ができるか、という点が最も重要なのだと感じました。良かれと思っておこした行動が、被災された方を傷つけることが無いよう、互いに尊重し合って一緒に復興を目指すスタンスの重要性に気付き、大変良い経験となりました。

大学生版 災害ボランティア講座

1月11日(金)に、今出川キャンパス良心館406教室にて、「大学生版災害ボランティア講座」を開催し、1名が参加しました。本講座は、「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」の取り組みの一環であり、災害ボランティアに関する基礎知識や、災害ボランティアセンターの運営について、実際に模擬体験を行いました。模擬体験ではボランティア支援室の職員も加わり、それぞれが災害ボランティアセンターの運営役として、ニーズの聞き取りを体験しました。

今年度は、関西圏でも地震や豪雨など多くの災害が発生し、改めて災害への備えを考える年となりました。いざ災害が起こったとき、何ができるか、どのようなことができるか考える機会となりました。



【学生レポート】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科2年次生 廣野 功氣

私は自分自身の東日本大震災の経験から、災害ボランティアに興味を持ちました。京都市の防災訓練では災害ボランティアセンターでの役割を体験し、今回の講座で災害ボラセンについてより深く学ぶことができると考え参加しました。災害ボラセンでは、どのようなニーズがあるのか被災者の方に聞き取り、その要望と全国から駆け付けたボランティアの方々とうまくマッチングする必要があります。この講義では現実的な事例をもとに聞き取りの実践訓練をしました。訓練を通して、被災者の方が必要とする支援を受け止めるには、災害ボランティアの知識と被災者の視点の両方が必要であると気付きました。

同志社つながる@カフェ

ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「同志社つながる@カフェ」を、年間を通して実施しました。「同志社つながる@カフェ」は、地域と学生の出会いをコンセプトに、地域で活動する様々な方々と出会い、気軽に情報交換ができる場として、上京区役所、上京区社会福祉協議会の協力のもと企画・運営しています。今年度は下記のとおり、全4回を実施し、京都ならではのテーマや地域が抱える課題について学び、意見交換を行いました。

上京区内にある京町家を会場に行う回もあり、より地域に関心を持つ機会を作ることができました。ゲストスピーカーの話を真剣に聞く様子や、グループワークで活発に意見交換を行う姿が印象的でした。今後も継続して、学生が地域に興味を持つきっかけを作っていきます。

○実施日・実施テーマ（参加者数）

5月23日（水）第11回「あなたの知らない祇園祭～祇園祭のごみってどうなってるの？～」(6名)

7月 3日（火）第12回「身近に潜む国際問題～異文化理解でよりよいまちへ～」(5名)

10月30日（火）第13回「知られざる京町家の秘密～京町家がなくなる?!～」(7名)

12月10日（月）第14回「京料理のソウナノカ!～京料理と地域の意外なつながり～」(9名)



【学生レポート】 ARCO 活動報告・感想

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科2年次生 酒井 理紗

私はこの1年「同志社つながる@カフェ」の企画・運営を行ってきました。企画書の作成から上京区役所等関係機関との会議、ゲストスピーカーとの打ち合わせなど、当日に至るまでの道のりは決して簡単なものではなく、大変なことも多かったです。しかし当日、ゲストスピーカーさんと参加学生が楽しそうに話しているのを見ることで、大きな達成感を得ることが出来ました。また、企画を作るプロセスの中で様々な人と出会い、多くの人の協力で成り立っている企画なのだと改めて実感しました。@カフェに関わるすべての人に感謝しつつ、今後も全力で活動に取り組んでいきたいと思います。

【学生レポート】

法学部政治学科3年次生 楠田 英美子

健康、栄養というテーマに私自身興味があり、今回の企画（京の食文化について）に参加しました。企画に参加する前は、京料理については全く知識もなく、価格が高いイメージという固定的なものでした。ですが、企画に参加したことで京料理には歴史があり、日本特有の四季や文化が深く関係しているということを知りました。同志社つながる@カフェではテーマについての疑問や抱える課題などを参加者同士で話し合うという場が設けられているので参加しやすく、とても楽しく活動することができると感じています。

和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア

体験ボランティアプログラム「和東のお茶を守ろう！茶畑ボランティア」を、年間を通して実施しました。体験ボランティアプログラムは「ボランティアに興味はあるけど参加するきっかけがない」「一歩を踏み出すのに勇気がある」といった学生を対象に実施している、ボランティア支援室主催のプログラムです。2016年度から継続して、京都府南部にある和東町にて、活動を行っています。

今年度の活動は、主にお茶の収穫をする準備のための草引きやお茶刈りのお手伝いといったもので、秋には秋番茶の収穫のお手伝いやお米の収穫体験も行いました。10月には半年から1年間放置され荒廃した茶畑の見学や地域散策を行ない、また、和東町にて継続的に活動している他大学生との交流も行いました。そして3月には、新しくお茶の木を植える土作りや、苗木を植える活動を行うなど、1年を通じて様々な形で和東町のお茶に関わることができました。

参加した学生からは、「私たちは、日々いろいろなものを消費することによって生活ができていて、それを支えてくれている農家の方々は、日々生産されているということに改めて気付かされました」「定期的に草を取り、肥料をやり、お茶の管理だけでなく、その他の手入れをすることも多く、私たちが普段簡単にスーパーなどで手にいれられるものも苦労して育てられたものだとこのことを改めて実感することができました」といった声が寄せられました。

○実施日・参加者数・実施内容

- 6月 2日（土）～ 3日（日） 体験ボランティアプログラム第5弾（6名）
茶畑での草引き、肥料やり、お茶刈り
- 10月20日（土）～21日（日） 体験ボランティアプログラム第6弾（5名）
茶畑での草引き、お茶刈り
荒廃茶畑の見学、地域散策、他大学生との交流
- 3月17日（日）～18日（月） 体験ボランティアプログラム第7弾（7名）
茶畑での草引き、肥料やり、苗植え、茶農家との交流



【学生レポート】

神学部神学科4年次生 大神 あずさ

私は、ボランティアで会う人との交流を通じて、自分の働き方や生き方を考えたいと思い、茶畑ボランティアに参加しました。このボランティアでは、茶畑の草引きやお茶刈りのサポートなどをしました。また、茶農家の方や、和東町の地域おこしに関わる方に、お仕事のことや和東町での暮らしについてお話を聞くことができました。その中でも、季節によって暮らし方や働き方が変化するという茶農家の方のお話が印象的でした。自然のサイクルに合わせて生きるということを知り、普段の時間の過ごし方を見つめる機会になりました。

【学生レポート】

法学部法律学科1年次生 中尾 満里奈

自然や農業に興味があり、今回のボランティアに参加しました。今回行った和東町はお茶の生産地であり、間近で見る茶畑は迫力があって素晴らしい景色でした。農業体験では一日目が雨で二日目が晴れだったため、農業という仕事は天候にかなり左右されるなと感じました。農業体験の中で、一見楽そうに見える仕事も実際はとても体力が必要で、普段自分が食べている食のありがたみを実感しました。都市部ではなかなか味わえない貴重な経験が出来て、楽しく活動できたと思います。

田舎の生活を体験！宿泊型スタディツアー in 笠置町&南山城村

9月18日（火）～19日（水）に「田舎の生活を体験！宿泊型スタディツアー in 笠置町&南山城村」を実施しました。地域活性化の取り組みのひとつとして、一般財団法人 和束町活性化センターが行なっている農業生活体験（民泊）に、モニターとして13名の学生が参加しました。昨年度は和束町での実施でしたが、今回は和束町に隣接する笠置町及び南山城村での開催となりました。

ツアーでは、地域の観光スポットの視察や、まちづくりに尽力されてきた村民の方のお話を伺い、地域の魅力や課題について考える機会となりました。民泊では一般のご家庭に一晚お世話になるという貴重な体験ができ、地域の方の温かさに触れる機会となりました。プログラムに参加した学生からは、「地域の方のお話をたくさん聞いた。生の声を聞くことのできる機会はなかなかないと思うので、とても貴重な経験になった」といった感想が寄せられました。



【学生レポート】

社会学部教育文化学科3年次生 杉田 晴希

京都府の、まだ見たことのない場所に行きたい、という思いで参加しました。プログラムには、訪問先の地域が抱える過疎化などの課題について考えるという活動があり、参加するにあたって少し緊張もしていました。しかし、地域の方々や参加メンバーと交流する中で、短い時間ながらも集中した話し合いができ、そうした活動があったからこそ、地域の魅力・特徴や自分自身の感じ方・考え方に対する気付きも得られたのだと思います。

ちょいボラ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう～

6月10日(日)に、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「ちょいボラ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう～」を実施しました。ちょいボラとは、ボランティアに興味はあるけど1人で参加するのは不安…と思っている学生に、ボランティア支援室の学生スタッフ ARCO と一緒にボランティア活動に参加してもらうという、学生スタッフの企画です。今回は、京都府立体育館にて開催された「障害者スポーツのつどい」に一般学生18名と ARCO スタッフ6名の計24名が参加しました。参加した学生からは「参加する前のイメージとは違い、ただ手伝うだけではなく、自分も楽しむことが出来た」との感想を聞くことができました。



【学生レポート】

法学部政治学科1年次生 飯田 淳史

障がい者スポーツという分野は近年注目されつつある分野で興味があったのですが、実際どのようなものか分かっていませんでした。そんなときに「障害者スポーツのつどい」でボランティアを募集していることを知り、参加しました。内容としては、障がい者の方がスポーツをされるのを見守るだけでなく、自分も体験したり、対戦相手となったりしました。実際に参加してみて印象に残ったことは、身体的・知的にかかわらず、障がい者の方が運動をおおいに楽しんでいたことでした。自分と障がい者の間の距離がぐっと近づいたように感じることができました。



寒梅館夏まつり



8月18日(土)に今出川校地学生支援課主催の「寒梅館夏まつり」が開催されました。「寒梅館夏まつり」とは、同志社大学のクラブやサークルに所属する学生が、日頃の活動の成果を披露するほか、地域の子どもたちに体験してもらい、交流を深めることを目的とするイベントです。ボランティア支援室では、学生スタッフ ARCO による企画「かみぎゅうくんの夏まつり」を行い、子どもたちとの交流を楽しみました。また、アトリウムスペースに設けられた特設ステージでは、学生スタッフ ARCO の進行で上京区や同志社大学にまつわるクイズを行いました。かみぎゅうくんも登場し、一緒にステージを盛り上げてくれました。

当日は学生スタッフ ARCO のほか、クラブ・サークル13団体、約190名の学生がスタッフとして全体のイベントを運営し、子ども・保護者合わせて約370名の参加者に来場いただきました。

【学生レポート】 ARCO 活動報告・感想

政策学部政策学科1年次生 酒井 慧弥

寒梅館夏まつりは、同志社大学のクラブやサークルに所属する学生が、地域の子どもたちとの交流のため様々なイベントを催すもので、ARCO は今年も輪投げとパズル、そして上京区に関するクイズ大会を行いました。私自身も輪投げやクイズで子どもたちとふれあいました。慣れない子どもの相手は難しく、いくつか困る場面もあったものの、楽しく活動できました。来年度以降もまた参加しようと思います。

1日体験ボランティアプログラム「梅小路公園で子どもたちと昔遊びをしよう！」

10月27日（土）に梅小路公園にて、1日体験ボランティアプログラム「梅小路公園で子どもたちと昔遊びをしよう！」を開催しました。1日体験ボランティアとは、地域のボランティア活動を少しのぞき見できる、1日体験型のプログラムです。大学主催のプログラムなので、安心して気軽に参加できます。

今回は、梅小路プレイパークという地域団体の活動に参加し、この日行われる「やんちゃフェスタ」での出展ボランティアとして活動しました。参加した学生からは、「あっという間に時間が過ぎたと感じるくらい充実した1日だった」「いざとなれば助けてくれる、全体を見てくれている人がいたので心強かったし、他の団体の人や子どもたちと一緒に取組めたのがよかった」といった感想がありました。



【学生レポート】

心理学部心理学科3年次生 田中 美緒

学部の授業で子どもの発達について学ぶ機会があり、そこから実際に子どもたちと楽しく交流したいと思い、参加しました。初めは子ども達と仲良くなれるか少し不安でしたが、こま回しや大縄などの昔遊びををするうちに童心に帰り、子どもたちと一緒に楽しむことができました。初めて会う子ども同士が仲良くなる姿を見られることや、学童の方や保護者の方など色々な人とお話しできたことが嬉しかったです。また、私から笑顔で挨拶すると、どの子どもも笑顔で話してくれるようになり、人との関わりには笑顔と挨拶が大切だと改めて気づきました。



四季体感イベント～ステンドグラス風写真立てを作ろう～

12月22日（土）に烏丸キャンパス志高館ラウンジにて、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「四季体感イベント～ステンドグラス風写真立てを作ろう～」を開催しました。当日は学生4名、小学生13名が参加しました。四季体感イベントとは、学生と地域がつながる場を作ることを目的に、学生がボランティアを通して、地域の小学生と季節ごとの行事を楽しむイベントです。今回は、クリスマスをテーマにゲームや工作を行い、交流を深めました。

参加した学生からは「子どもが好きで、子どもの笑顔を見ていて本当に嬉しかった」「日本で初めてボランティア活動に参加して最初は緊張したけど、最後は楽しめた」といった感想が寄せられました。



【学生レポート】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科1年次生 政所 奈乃羽

私は子どもが大好きなので、このボランティアの募集を知ってすぐに参加を決めました。いざ子どもたちを目の前にするとなぜか緊張してしまい、自分から話しかけられませんでした。ゲームを通して一緒に盛り上がるうちに打ち解けられました。写真立ての製作では、「ここにこれを貼るのはどう？」「この次はどうしたらいいの？」など、子どもたちからたくさん話しかけてきてくれて、とても嬉しかったです。短い時間でしたが、とても濃い時間を過ごすことができました。子どもたちの笑顔が、今でも宝物です。

1日体験ボランティアプログラム「こども食堂でこどもと一緒に過ごそう！」

2月27日（水）に京田辺市中部住民センターにて、1日体験ボランティアプログラム「こども食堂でこどもと一緒に過ごそう！」を開催しました。

今回は、京田辺市の「チームせせら goo」という地域団体の方が開催されている、こども食堂「スマイルダイニング」へボランティアの学生たち4名が参加しました。活動は、夕食の準備、子どものお手伝い教室、夕食会、勉強といった流れで行いました。

参加した学生たちからは、「準備から関わり、サポートする大変さや趣旨を理解できた」「子どもたちが家にいるかのようにリラックスしていて、温かい空間だと感じた」などの感想がありました。



【学生レポート】

商学部商学科1年次生 中野 有彩

最初は子どもたちとどのように関わればいいのか模索していましたが、子どもたちがフレンドリーに遊ぼうと話しかけてくれて緊張が一気にほぐれました。それからは、一緒に図書室に行ったり、鬼ごっこやるたをしたりして楽しむことができました。

学校や学年の隔たりなく、子どもたちが仲良くしている様子、地元の方々が優しく見守る様子を見て、とても温かい空間だと感じました。

子どもたちに「来月も絶対来てや！来てくれへんところちょこちょやで！」と言われた時は嬉しくて、来月も行きたいと強く思い、次回の参加を決めました。

祇園祭ごみゼロ大作戦！

7月15日(日)～16日(月・祝)にかけて、ボランティア支援室で募集した学生51名が「祇園祭ごみゼロ大作戦！」に参加しました。

当日ボランティアスタッフとして参加した同志社大学の学生は、リユース食器の配布、エコステーションの運営、拾い歩き回収、拠点運営といった活動を行いました。

活動後は、7月17日(火)に今出川キャンパス良心館406教室、7月18日(水)には京田辺キャンパス成心館204会議室にて、活動の振り返り会を行い、計12名が参加しました。

参加者からは「暑くてとても大変だったけど、多くの人と触れ合うことができ、ごみの分別に協力できたのでよかった」「訪れてくれた方がありがとうと言ってくれたことや、募金をしてくれた方も多くいたのでやりがいを感じた」などの声が聞かれました。また、「来年はボランティアリーダーとして参加してみたい」「自分自身も、日常からごみの分別を心がける」といった声が挙がるなど、意欲を見せてくれました。



【学生レポート】

経済学部経済学科4年次生 岩尾 海

僕がボランティアに参加した動機は、大学最後の年であり、思い出を作りたいだったためです。ボランティアには2日間参加し、1日目はゴミの分別や西日本豪雨の募金活動を行い、2日目はゴミの分別と回収ブースの撤収作業等の片付けを行いました。

活動をしていく中で、ボランティアは本当に感謝されることが多いものだと感じました。また、祭りが終わった後の独特な雰囲気も深く印象に残っています。活動全体を通して、とてもやりがいがあり、とてもいい経験になったと思っています。

1 日体験ボランティアプログラム「上粕の美しい竹林を取り戻そう！」



12月8日(土)に山城町才五郎谷にて、1日体験ボランティアプログラム「上粕の美しい竹林を取り戻そう！」を開催しました。今回は両校地より7名の学生が参加しました。

今回は、「NPO 法人加茂女」という地域団体が毎月行っておられる竹林整備活動に参加し、竹を燃やした炭を運び、その後切られた竹を焼却炉まで運ぶ作業を行いました。

参加した学生からは、「自然に囲まれた場所で作業をするのが新鮮で、めったにない体験だった」「トイレや橋、ダムなど何でも竹で作られていたことが印象的だった」といった感想がありました。



【学生レポート】

法学部法律学科1年次生 藤田 梨穂

私は美しい竹林の写真のポスターに惹かれて、「上粕の美しい竹林を取り戻そう」というボランティアに参加しました。現地に行ってみると、写真で見たような竹林が実際に広がっていました。主に竹を運ぶ力仕事だったため大変でしたが、初めて行った竹林の中で作業するのはとても気持ちよかったです。また、同じようにボランティアに参加した人たちと交流することができるのも、ボランティアの良いところだと思いました。貴重な経験ができ、私自身も楽しめた活動でした。

NICE 国際ボランティアセミナー～国際ボランティアってどんなの?～

6月20日(水)に、京田辺キャンパス知真館3号館115教室、7月9日(月)に、今出川キャンパス良心館413教室にて、「NICE 国際ボランティアセミナー～国際ボランティアってどんなの?～」を開催しました。参加者は計16名でした。

この企画は、国際ボランティアをしたい学生や海外で活躍したいと思っている学生へ向けて、NICE(日本国際ワークキャンプセンター)の取り組みや、実際にプログラムに参加した先輩の体験談を紹介することで、国際ボランティアへの理解を深めてもらうとともに、学生生活を充実させるきっかけとすることを目的とした企画です。当日は計7名の学生に登壇してもらいました。

参加者からは、「NICEの活動内容や参加までのフロー等、聞きたい事を直接聞けて、詳しく知ることができて良かった」「絶対行きたい!と思いました。実際行った方のお話を聞いて、まさに自分のしたいことだと思いました」などの感想がありました。



【学生レポート】

法学部政治学科4年次生 河原崎 美優

残り少ない学生生活において海外の方を交えた現地ボランティアに参加したいと思い、今回の企画に参加しました。NICEがどのような活動を行っているかだけでなく、実際にボランティアに参加された方のお話を聞けたことがとても良かったです。ボランティアで出会った人とのつながりや異文化交流など、普通の旅行では体験できないことができる醍醐味があることを知り、実際に自分自身も参加してみたくくなりました。

【学生レポート】

心理学部心理学科1年次生 島名 柚衣

日本で約20年、何不自由なく育ってきたことを有難く思う反面、自分の視野はとてつもなくせまいのでは、という気持ちを覚え、国際ボランティアに参加したいという思いを抱きました。そんな時、友人とボランティア支援室に足を運んだ際に、こちらの企画を紹介していただいたのをきっかけに、参加しました。

実際に参加された方々やスタッフの方のお話を聞いたことで、行きたい気持ちが増しました。また、国際ボランティアは、海外で行うものがすべてだと思っていたのですが、国内でも国際ボランティアが行われていることを、はじめて知りました。

私もこの夏参加しようと思っていたのですが、ボランティアプランのスケジュールと私の予定が合わなかったため、断念しました。春休みには参加したいと思います。NICEのような団体について知る機会を与えてくださったことを感謝しています。

JICA 国際ボランティアセミナー～青年海外協力隊ってどんなの?～



7月2日(月)に、今出川キャンパス良心館208教室、7月4日(水)に、京田辺キャンパス知真館1号館211教室にて、「JICA 国際ボランティアセミナー～青年海外協力隊ってどんなの?～」を開催しました。参加者は計14名でした。

この企画は、JOCA(公益社団法人 青年海外協力協会)の職員と、青年海外協力隊員として活動された方を講師としてお迎えし、制度や活動の体験談を語っていただくセミナーです。

参加者からは、「実際に働いていた方の話を聞く機会はありませんでした、今回具体的なイメージを掴むことができて、とても満足した」「活動のやりがいはもちろん、自分自身のスキルやメンタリティーを高めることのできるいい制度であると思った」などの感想がありました。

【学生レポート】

生命医科学部医工学科1年次生 加藤 凜久

まだ発展していない国に実際に行って活動を通して発展に貢献したい、また、この活動を通して自分の中での視野を広げたいと思いセミナーに参加しました。セミナーでは青年海外協力隊としてガーナに行かれた方の話を聞くことができました。現地での実際の生活や理数科教師として行かれて感じた現地の学校についてなど、私がこれまであまり考えることの無かったガーナという国について写真を用いて説明して下さり、とても興味深く聴くことが出来ました。JICAには様々な形式での活動があるということで、これを機会にいつか自分も参加したいと思いました。

ボランティア入門講座～ボランティアって何だろう？～

8月9日(木)に今出川キャンパス良心館207教室にて、「ボランティア入門講座～ボランティアって何だろう？～」を開催し、6名が参加しました。この企画は、ボランティアに興味はあるが一步を踏み出せない学生などを対象とし、ボランティア活動への参加のきっかけとしてもらうことを目的とした企画です。3人の講師をお迎えし、「そもそもボランティアとは?」、「大学生がボランティアに参加する意義」、「地域で活動する魅力」といったテーマについてお話しいただきました。また、後半には講師による個別相談会も行いました。

参加者からは、「ボランティアについて具体的なイメージをつかむことができた」といった感想が寄せられ、最初の一步を踏み出す大きな後押しになったようです。



【学生レポート】

経済学部経済学科1年次生 藤原 もえ

大学生になり、漠然とボランティアがしてみたいと思っていましたが、具体的に何をしたら良いのか分からなかったため、今回の入門講座に参加することにしました。講座では、ボランティアの基本的な考え方や、講師の皆さんが活動されているボランティアについて深く知ることができました。また、講座の後にボランティア相談をする機会があり、ボランティアに対する不安や悩み、他の参加者の意見などが聞けて、力強いアドバイスも頂きました。今後実際にボランティアをする際、自信を持って活動できると感じました。



【スキルアップ講座】 Vol.3 企画のつくり方講座

9月20日(水)に、京田辺キャンパス恵道館202教室にて、「スキルアップ講座 Vol.3 企画のつくり方講座」を開催しました。[スキルアップ講座]とは、ボランティア活動に取り組んでいる学生や学内ボランティア団体等を対象に、活動に活かせる発展的な知識やスキルを学ぶ場を提供するボランティア支援室主催の講座です。今回は、講師に川人ゆかり氏(合同会社ミラマール代表社員/カノホナヒューマンリソース株式会社執行役員)をお迎えし、18名の学生が参加しました。学生たちからは、「企画は相手の立場に立って考える、という大切さを身に沁みて感じました」「今回初めて、企画とはこういうものなんだと知り、今後の活動や人生に活かしていきたい」などの感想が寄せられました。



【学生レポート】

同志社女子大学現代社会学部現代こども学科1年次生(スポーツボランティア団体Egg所属) 上田 香穂

サークルに入って企画作りに興味を持ち、今後役立てたいと考え参加しました。特にアイデアを出す際のポイントの話が印象に残っていて、「実現可能かではなく、どうやって実現していくか」を考えること、また、「ターゲットの立場にとことん寄り添う」「ジャンルの違う企画を参考にする」など、視点を変えることも大切だと分かりました。さらに企画書の書き方や、企画の進め方も知ることができ、参加してよかったと思いました。

【スキルアップ講座】 Vol.4 新メンバーを引き込む団体づくり

3月5日(火)に、今出川校地キャンパス105教室にて、「スキルアップ講座 Vol.4 新メンバーを引き込む団体づくり」を開催しました。

今回は、講師に川中大輔氏(シチズンシップ共育企画 代表/龍谷大学社会学部講師)をお迎えし、15名の学生が参加しました。講座では、新メンバーが入った後にどのようなフォローアップができるか、これまでの事例をもとに考えるほか、広報のポイントについても学びました。学生たちからは、「新歓のポイントを詳しく知ることができたのと、辞めていく人の声の大切さを知れた」「チラシの作り方、広報(PR)やモチベーションを下げないように工夫するためには…と、考え方が少し変わるような内容の講座だった」などの感想が寄せられました。



【学生レポート】

生命医科学部医工学科2年次生 中村 瞭太

これから始まる新歓活動や、その後にどのようにして私たちの団体に残ってもらうかといったことについて学びたいと思い、今回の講座に参加しました。講座を受ける前はかたい内容の話や黙々と聞くだけなのではないかと不安に思っていたのですが、グループワークがメインで様々な団体の人と関わり、お互いの考えやアイデアを共有しながら進めることができ、グループの人とも自然と仲良くなることができました。講義の時間では「ゆるきっちり」をモットーとした分かりやすい説明に引き込まれていき、3時間の講座があっという間に感じました。今回の講座で学んだことを、これからの新歓活動やその後の活動に活かしていきたいと思えます。

代表挨拶

文学部文化史学科2年次生 河田 和香

私たち ARCO は、「地域と共に」をスローガンに、同志社大学の学生のボランティア活動の活性化を目的として、ボランティア情報の発信・紹介やボランティアイベントの企画・運営などを行っている同志社大学ボランティア支援室の学生スタッフです。

本年度は会場や広報方法の見直しなど、既存の企画をさらにパワーアップしたことで、より学生にボランティアや地域を身近に感じてもらうことができました。

次年度もより学生にボランティアの身近さや楽しさを感じてもらえるようなアイデアを考え、実行していきます。



新入生歓迎イベント

法学部法律学科2年次生 松本 美笛

今年度は「ボラカフェ」と「ARCO と歩こう！大学周辺てくてくツアー」の2つの新歓イベントを行いました。

まず4月2日（月）～6日（金）に、「ボラカフェ」をボランティア資料室で行いました。普段ボランティア支援室で実施しているボランティア相談をカフェのような和やかな雰囲気で行うことで、緊張感もなく気軽に来室してもらうことができました。来室された学生の中には、ボランティアだけでなく ARCO にも興味を持ってくれた学生がいて、真剣に話を聞いてくれたのでとても嬉しかったです。

続いて4月14日（土）に実施した「ARCO と歩こう！大学周辺てくてくツアー」では、京都・上京区の歴史について深く学ぶことができました。ゲストスピーカーのお話を聞いた後、実際に大学周辺を散策したことで、より一層上京区の歴史に魅力を感じるとともに、大学周辺に様々な時代の文化が残っているという新たな発見もできました。当日は晴天にも恵まれ、ミニゲームなどを通して新入生とたくさん交流し、とても楽しいひとときを過ごしました。



商学部商学科1年次生 湯川 菜乃子

ARCO に興味を持ち、もっと知りたいと思い新歓のてくてくツアーに参加しました。大学周辺のお店の話だけでなく、通りの名前や町家についても教えてもらい、京都の町に関する知識が増えました。また、初めてお茶を点てる体験ができて、とても良い機会となりました。初めは少し不安もありましたが、ARCO の先輩方は気さくな方が多く、あまり緊張せずにお話しできたので良かったです。私も来年は新入生を迎える立場として、皆が楽しめる企画作りができればと思います。

「突撃ボランティア支援室」「出張ボランティア支援室」

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科2年次生 廣野 功氣

私は今回「突撃ボランティア支援室」、「出張ボランティア支援室」という2つの企画の運営と実施に関わりました。どちらの企画も普段の ARCO の活動より多くの学生に接するので、様々な気づきがありました。特に出張ボランティア支援室では、ボランティア支援室や ARCO に対する質問を学生からたくさんいただきました。学生のボランティアに対する関心の高さを知るとともに、ARCO のさらなる情報発信の必要性を感じました。これからもこのような活動を通じて、学生にとってボランティアを身近な存在にしていけるよう一所懸命頑張ります。



合宿

法学部法律学科2年次生 磯貝 泰知

今年度は夏合宿を9月6日（木）～7日（金）に宇多野ユースホステルで行いました。ワークでは春学期の活動の反省と秋学期の全体目標設定を行いました。春学期に自分に足りなかったところを発見し、みんなの思いをたくさん盛り込んだ4つの目標を作りました。また、秋学期の活動に向けて役割など細かなところまで決めることができました。そして、この合宿をもって自分たちの代へと代替わりをしました。これから先輩たちが築き上げた ARCO を後輩達と共に発展させていきたいです。



研修

政策学部政策学科2年次生 向井 健人

今回の研修のテーマは「メンバーシップ、リーダーシップ」でした。ある議題についてグループで議論している様子を他のグループが観察して、各メンバーの特徴を把握、記録し、それを後に共有しようという内容で、他のメンバーの議論内での役割や、自分では気づいていなかった自分の特徴を知ることができました。また、今まではメンバー同士のことをしっかりと理解することができていませんでしたが、今回の研修でメンバー各々が互いの理解を深め、個性を把握して接することができるようになったと思います。



OBOG 会

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科3年次生 鈴木 祐輔

ARCO という組織が結成されて以来初めての OBOG 会を、12月9日(日)に開催しました。始めに3年生より昨年度の秋学期及び今年度春学期の活動報告を行い、続いて現役メンバーより今年度秋学期の活動報告を行いました。続いて OBOG から ARCO 結成の経緯や ARCO の理念についてお話しいただきました。現役メンバーのスキルやモチベーションアップだけでなく、OBOG が現在の ARCO を知る貴重な機会ともなりました。その後の交流会では、ARCO の活動に関わらず、就職活動や社会人としての経験を何うなど積極的に交流することができました。今後も横の繋がりや外部との繋がりだけでなく、縦の繋がりも大切にする組織であればと思います。



大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 2019

文学部文化史学科2年次生 河田 和香

2月12日(火)～13日(水)に、リーダーセミナーに参加しました。全国にあるボランティアセンターの学生スタッフリーダー33名が参加し、合意形成に関するワークを行いました。このワークを通して、時間をかけてでも全員で納得した決定をすることは、メンバーの協調性を高めるために重要なことだと学びました。また、たくさんの他大学の学生スタッフと交流することができ、ARCO に足りないところはもちろん、ARCO の良さも再発見することができる機会となりました。

＝ ARCO 活動実績 2018 年度 ＝

4月2日(月)～6日(金)	新入生歓迎イベント「ボラカフェ」を実施
4月5日(木)	V-NET 新歓交流イベント@今出川～同志社でボランティアしよう!～を実施
4月14日(土)	新入生歓迎イベント「ARCO と歩こう!大学周辺でくつろぎツアー」を実施
5月23日(水)	第11回同志社つながる@カフェ「あなたの知らない祇園祭～祇園祭のごみってどうなってるの?～」を実施
6月1日(金)	平成30年度第1回上京区まちづくり円卓会議に参加
6月10日(日)	ちょいボラ～学生スタッフ ARCO とボランティアに行こう!～を実施
6月19日(火)～22日(金)	突撃ボランティア支援室!を実施
6月19日(火)～22日(金)	出張ボランティア支援室!を実施
7月3日(火)	第12回同志社つながる@カフェ「身近に潜む国際問題～異文化理解でよりよいまちへ～」を実施
7月31日(火)	平成30年度第1回上京区まちづくり円卓会議拡大会議「上京!MOW」に参加
8月18日(土)	寒梅館夏まつりにて「かみぎゅうくんの夏まつり」ブース設置
9月6日(木)～7日(金)	ボランティア支援室学生スタッフ ARCO 夏合宿実施
10月5日(金)	平成30年度第2回上京区まちづくり円卓会議に参加
10月28日(日)	上京区民ふれあいまつりにてボランティア支援室活動紹介ブースを設置
10月29日(月)～11月2日(金)	出張ボランティア支援室!を実施
10月30日(火)	第13回同志社つながる@カフェ「知られざる京町家の秘密～京町家がなくなる?!～」を実施
11月7日(水)	平成30年度第2回上京区まちづくり円卓会議拡大会議「上京!MOW」に参加
12月10日(月)	第14回同志社つながる@カフェ「京料理のソウナノカ!～京料理と地域の意外なつながり～」を実施
12月22日(土)	四季体感イベント「同志社大学のお兄さんお姉さんとあそぼう」を実施
2月12日(火)～13日(水)	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー 2019 に参加
2月21日(木)～22日(金)	ボランティア支援室学生スタッフ ARCO 春合宿実施
2月28日(木)	平成30年度第3回上京区まちづくり円卓会議に参加

新歓交流イベント@今出川～同志社でボランティアをしよう～

4月5日(木)に、今出川キャンパス良心館306教室にて、「新歓交流イベント@今出川～同志社でボランティアをしよう～」を開催しました。この企画は、同志社ボランティアネットワーク(V-NET)に所属する9団体と学生スタッフARCOが協同で企画・運営を行った新入生歓迎企画です。今回は、58名の学生が参加しました。

当日は、各団体の活動紹介を行い、その後にブースに分かれ個別に質問や相談を受ける時間を設けました。参加者からは、「いろんな団体の活動を知ることができてよかった」「どこかには入ってみたいがとっても悩みます！でも何か活動はしてみたい！」といった感想が寄せられ、最初の一步を踏み出す大きな後押しになったようです。



【学生レポート】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科1年次生 山中 咲季

以前から国際ボランティアをしたいという思いがあり、ボランティア団体が集まって説明会を行うということでV-NETの説明会に参加しました。活動内容を初めて具体的に知ること、自分のボランティア像を想像した上で、自分に合った団体を選ぶことが出来ました。また、規模自体が大きいものではなかったので、新入生にとってとても行きやすい説明会でした。



ボランティアフェア～V-NET新歓交流会2018～

4月6日(金)と4月24日(火)に、京田辺キャンパスローム記念館劇場空間にて、ボランティアフェア～V-NET新歓交流会2018～を開催しました。これは、同志社ボランティアネットワーク(V-NET)京田辺に所属する6団体が一堂に会し、主に新入生に対して活動紹介を行う新歓企画です。今回は計63名の学生が参加しました。活動紹介後は、各団体のブースに分かれて個別に質問できる時間を設け、参加者と団体担当者が活発に交流を行いました。

参加者からは、「ボランティアに興味がありましたが、すべてのサークルの新歓に行くことは難しかったので、今日お話を聞けてよかったです」「子ども、自分自身双方の成長をはかれる活動に興味を持ちました」などの感想がありました。



【学生レポート】

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科1年次生 韓 侑奈

高校の頃はボランティア活動をすることができず、大学に入ったら何かボランティアを始めたいと思っていたので、ボランティアフェアに参加しました。そこでDUAL Sportという団体があることを知り、活動内容を聞くと子ども達と交流するボランティアとのことで、とても楽しそうなので入ることを決めました。夏にキャンプがあるので、最近はその準備を中心に活動しています。キャンプの参加も普段の活動も初めてで緊張しますが、楽しみながら取り組んでいます。

V-NET1 日体験入部

V-NET1日体験入部を実施しました。この企画は、「V-NET加盟団体間の交流と、お互いの活動に関する理解を深めたい」という提案から生まれた企画です。活動へ参加した学生からは、「他団体がどんな活動をしているのかよく分かった」「自分達の団体とは違うやり方を発見できた。次の活動に活かしたい」などの感想がありました。

【学生レポート】

文学部英文学科3年次生 西島 加於理

地域の方向けの防災啓発イベントを、ARCOのメンバーと共同で行いました。サークル間で交流することで、お互いのサークル活動の可能性を広げたいという想いで行いました。また、参加していただいたARCOのメンバーの方にも、防災の大切さと、防災が身近なもので簡単に出来ることを知っていただけました。



【学生レポート】

心理学部心理学科1年次生 小田 桃加

私の所属しているサークルは、小学校の子どもたちとスポーツを通して笑顔になることを目指して活動しています。今回、PAZMUSICAへの1日体験入部に参加した理由は、いつもの活動とは違い、障がいを持った子どもたちと触れ合うことができるということでした。「意思疎通の難しい子どもたちとの初めての交流だ」と思い、とても緊張していたのですが、活動に参加してみると、言葉で繋がらなくても音楽で繋がることができるということが分かりました。音楽を楽しむという姿勢は、健常者も障がいを持っていても一緒だったのです。楽しそうに音楽を聴いている子どもたちを見て、自然と私も笑顔になることができました。活動に参加できたことで、新たに子どもたちとの繋がり方を学ぶことができたと思います。

V-NET 交流会

2018年度は、6月26日(火)と12月19日(水)の2日間、V-NET 京田辺主催のV-NET 交流会を開催し、計68名の学生が参加しました。この交流会は、「まずはお互いを知りあう」ことを目的に、主に京田辺キャンパスで活動する同志社ボランティアネットワークが、お互いの連携を深めるために集まっています。参加した学生からは、「最初に名前や相手のことについて覚えられるようなレクをしたことによって、その後のレクがより楽しめたと思う」「参加者も多く、自然と会話を生むような企画で、団体間の壁を壊すきっかけになった」「みんなが笑顔で楽しい雰囲気が伝わり、途中参加でも楽しめた」「サークルごとに固まらず、バラバラで話せたし、なんでもバスケットは全サークルが1つになってやっているように感じた」などの感想が寄せられました。



【学生レポート】

心理学部心理学科1年次生 近藤 結子

他の人たちとの交流はもちろんですが、他団体がどのような活動をしているのか知りたかったので、今回初めてV-NET 交流会に参加しました。レクリエーションを通してV-NETの中で新しい友達ができただけは嬉しかったですし、各団体の活動の様子についても少し話を聞くことができました。これからは他の企画などにも参加して、もっと色々な人たちとの関わりを持ってほしいなと思っています。

【学生レポート】

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科1年次生 安田 優美香

12月19日(水)に開催されたV-NET 京田辺交流会にGlobal Batonのメンバーとして参加しました。交流会では上回生はもちろん、沢山の同回生とも知り合うことができ、本当に楽しかったです。平日のお休みに行われるV-NETのミーティングには何回か参加しているのですが、真剣な話し合いの場ということもあり、なかなか他のボランティア団体の方と交流を深められていませんでした。交流会では、「なんでもバスケット」や「名前集めゲーム」など、沢山のミニゲームが用意されており、様々なボランティア団体の方と年齢、学部関係なく楽しい時間を過ごすことができました。私はいつも人の名前をなかなか覚えられないのですが、「名前集めゲーム」や「自己紹介」で何回も名前を確認できたので、多くの方の名前を覚えることができたのも嬉しかったです。自分から話しかけることが苦手ですが、主催者の方々の様々な工夫と細かい気遣いのおかげで、とても楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。



V-NET トークライブ

10月3日(水)に、京田辺キャンパスローム記念館劇場空間にて、「V-NET トークライブ」を開催しました。V-NET トークライブは、サークル活動で悩みのある学生や、サークルに入りたいけれど、どこに入っていけない、という学生に向けて、V-NET(同志社ボランティアネットワーク)京田辺のボランティアサークル6団体が集まり、サークル活動や内情について語るというV-NET 京田辺主催の企画です。

当日は、ボランティアサークルに所属する学生や、サークルに興味を持った学生など、44名が参加しました。参加した学生たちからは、「とても明るい雰囲気が伝わってきて、楽しかった」「活動内容だけじゃなく、人間関係や費用など普段は聞けないところまで聞けたのが良かった」などの感想が寄せられました。



【学生レポート】

心理学部心理学科2年次生 瀬田 千夏

あるボランティアサークルに所属している友人から誘われ、どのようなボランティアサークルがあるのかに興味を持っていたこともあり、今回のV-NET トークライブに参加しました。初めはとても緊張しましたが、親切な人たちばかりで、レクリエーションなどを通して、楽しむことができました。また、サークル紹介の際には、それぞれの代表の方が説明されていて、サークルごとの雰囲気を感ずられ、より興味が深まりました。そして、フリートークでは、サークルの境界を超えた和気あいあいとした空気が流れていて、見ているこちらも楽しくなるようなイベントでした。

同志社ボランティアネットワーク ウィンターフェス

2月16日(土)に、多々羅キャンパス体育館にて、「同志社ボランティアネットワーク ウィンターフェス」を開催しました。

これは、同志社ボランティアネットワーク(通称V-NET)京田辺が開催し、他団体と協力して企画開催を行うこと、それぞれのサークルが日常的に関わっている地域の方々をお呼びすることで、交流の輪を広げることを目的としています。当日は、地域の方が18名、学生12名が参加しました。

参加した子どもたちの保護者の方からは、「週末に体を動かして遊んでもらい、大学生とも交流できるのでありがたい」といった感想をいただき、参加者の子どもたちからは、「色々な遊びができて楽しかったから、また来たい」などの感想をたくさんいただきました。

企画を運営した学生たちからは、「他団体との違いが見つけられて新しい発見があり、今後の活動に活かそう」などの意見がありました。



【学生レポート】

同志社女子大学学芸学部音楽学科2年次生(PAZMUSICA所属) 平井 咲良

ボランティア活動を盛り上げようと様々な企画を通して切磋琢磨してきたV-NETメンバーと、地域の皆様と交流の機会を持ちたいと思い、今年度最後のイベント企画であるウィンターフェスティバルに携わりました。リハーサルもなく一発本番だったため不安もありましたが、幼稚園から中学校までの広い年齢層の子どもたちに楽しんでもらえ、私自身も一緒に遊べてとても嬉しかったことで、心に残る企画になりました。また、学生スタッフ同士の信頼関係がより一層深まったことで達成感もありました。

国際居住研究会

活動内容

「私達は世界の誰しにも可能性の開かれたフェアな社会の実現を目指します」という理念のもと、貧困地域の住居支援を行う「ハビタット」、フィリピンのゴミ山周辺で暮らす女性や子供の支援を行う「ソルト」、バングラデシュの孤児院の支援を行う「ポンドゥ」、世界の農村リーダー育成を目指す「アジア学院」の4つのプロジェクトに分かれて活動しています。

【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 田中 雄真
 普段のミーティングに加え、長期休暇などに国内外を問わず様々な活動を行っています。メンバーの経験や参加動機は異なりますが、色々な形のボランティアに、本気で取り組むことができる環境があるのが魅力です。



学生団体 CHAD

活動内容

私たちは、「両国の学生が主体となって諸問題の解決となる第一歩の活動・ムーブメントを起こす」を目的に、カンボジアで国際協力活動をしています。主に夏に2週間程現地を訪れ、プノンベン大学の学生と協力しながら子供達と運動会をしたり、移動図書館や日本の小学生との絵手紙交換など、教育支援となるプロジェクトを行なっています。また日本での活動として、カンボジアを支援するための活動費を得るため、フリーマーケットやイベントを開催しています。



【メッセージ】

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科1年次生 山中 咲季
 私たちは学生団体として今出来ることは何かということを考えながら活動しています。カンボジアや国際支援に少しでも興味のある方は気軽にミーティング見学に来て下さい！

学生団体 LUCKY

活動内容

世界最貧国と言われるネパールには、十分な教育を受けられない子どもたちがたくさんいます。私たちは、そんな子どもたちのために、教育支援を中心とした支援活動を行うため、募金活動やイベントを行っている団体です。また、春・夏の年2回のスタディーツアーで支援先の村を訪問し、現地の子どもたちに寄り添った支援を心がけています。

【メッセージ】

商学部商学科2年次生 栃尾 美優
 私たちの理念「Learn to Act, Act to Learn～あなたと明日を～」に含まれる”あなた”とは LUCKYの活動に関わってくださる全ての人を指します。”あなた”への感謝を忘れず、ネパールの子どもの明日を創るために日々活動していきます。



同志社ヒーローショー同好会

活動内容

幼稚園や小学校、地域のお祭りや小学校、福祉施設などの子供の集まる場所において活動を行っているボランティアサークルです。

子供たちや地域の皆様と、我々学生との交流を目的として「同志社戦隊タナレンジャー」の活躍するヒーローショーやボランティア活動をおこなっています。

【メッセージ】

経済学部経済学科2年次生 井上 直紀
 ヒーローショーを通じて子供たちが素敵な笑顔になってくれる事が私たちの一番の喜びです。これからもう人も多くの方に笑顔になっていただくため、より良い公演を目指します。



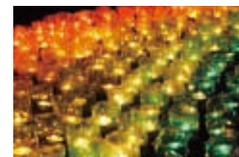
Shinmachi Activate Project

活動内容

私たちは新町の活性化を目的に活動している団体です。同志社大学の学生をはじめ、地域の方々に楽しんでいただけるイベントなどを企画・運営しています。毎年12月に開催している「新町祭」では地域の方々、学生と共に作る関西最大級のキャンドルナイトイベントとして、多くの方々にお越しいただいています。

【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 天野 司彩
 こんにちは SAP です。私たち SAP は、“新町第一”を目標に掲げ、新町を盛り上げるため、学生と地域の方々でともにイベントを作り上げ、地域全体が笑顔になれるように全員で頑張ります！！





STUDY FOR TWO

活動内容

「勉強したいと願うすべての子どもたちが勉強できる世界に」を理念に、全国約50大学の支部で年間寄付額1,000万円を目標に活動しています。

活動内容としては、大学生の使い終わった教科書または読み終わった本を回収し、それを安価で販売することで得た利益を、ラオス・バングラデシュの教育支援費として寄付しています。大学生はお得に教科書を手に入れることができ、途上国の子どもたちも勉強できるようになるといった、教育支援のWin-Winなシステムを構築しています。



【メッセージ】

社会学部教育文化学科2年次生 木村 遥奈

ボランティア特有の「身を削る」という概念を覆して、誰もが損をせず得をするシステムだという事もあり、やりがいを持って活動できると思います。和やかな雰囲気メンバーですので、お気軽にご連絡いただけたら嬉しいです！ Twitter : Study42_DU
教科書回収でハズレなしの福引をやっていますので、是非テスト期間に良心館前へお越し下さい！

ASUVID 今出川

活動内容

ASUVID 今出川は、誕生して8年目のボランティア団体です。私たちは京都周辺で地域に根ざしたボランティア活動を行っています。鴨川清掃、過疎化や高齢化が進む地域でのお祭り運営のお手伝い、災害に備えた講習、子どもの教育支援、ペットボトルキャップを回収し、換金してワクチンを世界の子どもたちに寄付するエコキャップ運動、消費者問題の子どもたちへの啓発活動など、多岐にわたる分野で充実した活動を行っています。



【メッセージ】

法学部法律学科3年次生 沼田 晃弥

ASUVID 今出川は現在285名で活動しており、同志社最大のボランティア団体です。活動は全て学生の企画運営で成り立っており、学生の「やりたい」が形にできます。これからも『人』のために行動し続けます。



同志社 FAST

活動内容

同志社 FAST は、防災を身近に感じてほしいという想いで防災啓発活動をしています。主な活動として、小学生に防災グッズの作り方を教える小学生向け防災教室や、学祭でのブース出展を行っています。また、他大学の防災サークルと共に年に1度、1,000人の方が来場する防災イベントをイチから企画し、運営を行っています。京都府の呼びかけによって誕生したサークルのため、京都府との交流も盛んにあります。



【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 頼末 知佳

防災という、命に関わるものを楽しく学べるサークルです。他のサークルでは学べないこと、経験できないことができ、たくさんの方と交流することができます。少しでも興味をもっていただけたら嬉しいです。



同志社ワーキングコーラス

活動内容

私達同志社ワーキングコーラスは、「青少年の健全育成」及び「会員の全人格的人間形成」を理念に掲げ、男女1:1の約100名で日々の活動を行っています。具体的な活動内容としては、野外炊事や、キャンプファイヤー、ウォークラリーなどを含むキャンプやハイキングといった野外活動を子供たちと一緒にしています。その他、週に一度、キャンプの会議や仲間との親睦を深めるための活動をしています。



【メッセージ】

法学部政治学科2年次生 藤岡 明登

非日常の中での子供たちとの一瞬一瞬に感動を覚え、仲間とともに心から喜びあえるサークルです。キャンプやハイキング活動に興味がある学生や、子供が大好きな学生など、様々な思いを持った部員によって、日々の活動を全力で楽しんでいます！

スポーツボランティア団体 Egg

活動内容

Eggは「スポーツで人々を笑顔に！」をモットーに、体を動かす楽しさ、人と人の繋がりを体験できるような活動を目指しています。

活動の参加者は小学生が多く、彼らとスポーツを楽しむ中で一緒に成長していければと思っています。毎週月曜日にミーティングを行い、子供たちと遊ぶ企画を一から考えています。小学校での活動は水曜日が多いです。



【メッセージ】

Eggで活動している人は、スポーツやボランティアがしたい人、子供が好きで、新しいことを始めたい人、企画を一から作りたい人など様々です。個性豊かなメンバーと、大学生と参加者がわくわく出来る企画を考えています！

文化情報学部文化情報学科2年次生 森下 宗一郎



Global Baton for Ishinomaki

活動内容

「自分にも相手にも社会にも良いことを」という理念のもとで活動しています。数多くのボランティアサークルの中でも、留学生が半数を占めていることが特徴です。活動内容は、月に一度の国際色豊かな料理パーティーや季節のイベント（ハロウィン、クリスマス等）、週一度のミーティングとランチタイムを設けています。新規事業としてGBサーカスというYouTubeチャンネルも始めたため、動画撮影や編集に興味のある方も大歓迎です。

【メッセージ】

留学生と交流をしたい日本人学生、日本人の友達を作りたい留学生双方を結び付ける交流の場を提供しています。グローバルバトンでしか体験できない国際交流を、私達と一緒にしてみませんか？皆さんが参加されることを心からお待ちしています。

文化情報学部文化情報学科2年次生 波場 瑛

そら

活動内容

子どもたちの保護者と連携しながら、精華町に住む障がいをもつ子どもたちと、調理・工作・外出などの活動を企画・運営しています。「そら」は2003年に特定非営利活動法人として京都府より認証を受け、学生だけでなく、困ったときにアドバイスをしてくださるスタッフ（職員）と共に活動をしています。また、昨年からは新たにひとり親家庭の子どもたちと一緒に勉強したり遊んだりする「学びの広場」という活動も始めました。子どもたちは物事の感じ方や捉え方が一人一人違うので、新しい発見があったり面白さを知ることが出来ます。



【メッセージ】

「そら」の活動では子どもたちといつも楽しい時間を過ごしています。活動を続けていると実際に子どもたちの成長を肌で感じる場面が多々あります。そんなときは自分のことのように嬉しい気持ちになります。みなさんも私たちと一緒に子どもたちの成長を近くで見守ってみませんか？

文化情報学部文化情報学科3年次生 岩佐 祐香



同志社生涯スポーツ研究会～ DUAL Sport ～

活動内容

DUAL Sportは年齢・性別を問わず、誰もが楽しめる生涯スポーツの普及のために活動しています。メインイベントは、年に2回、小学生対象に企画・開催している「すぽっこキャンプ」というスポーツキャンプです。その他の活動としては、京田辺市の小学生を対象としたドッジビー指導や、中京区の健康づくりサポーターの皆さんと協力して、お年寄りの方の健康づくりのお手伝いをしたり、年に数回、子ども会のイベントにも参加させてもらっています。

【メッセージ】

DUAL Sportでの活動を通して、幅広い世代の人と関わることができます。ボランティアをしてみたいという人はもちろん、スポーツが好き、子どもが好き、おじいちゃんおばあちゃんと関わりたいという人をお待ちしています！

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科2年次生 都築 優人



PAZ MUSICA

活動内容

PAZ MUSICA（パズムシカ）は、音楽を通して地域の方々と交流する音楽ボランティアサークルです。幅広い年代の方と出会い、「笑顔の輪」を広げることが目標としています。主な活動の場は、デイサービスや保育園、特別支援学校、そして地域のお祭りや子ども会のイベントです。バイオリンやクラリネットから鍵盤ハーモニカまで、様々な楽器で演奏しますが、ただ演奏するだけではなく、歌などの様々な方法で参加者の方々と一緒に楽しむことを大切にしています。



【メッセージ】

文学部国文学科2年次生 井関 優

PAZ MUSICAの活動には、いつも素敵な笑顔と音楽の出会いがあります。歌うことや楽器を演奏することが好きな人、幅広い年代の方々や交流してみたい人、ぜひ一緒に笑顔の輪を広げましょう！もちろん楽器未経験の方も大歓迎です。



ASUVID 京田辺

活動内容

私たち ASUVID 京田辺は、同志社大学・同志社女子大学の学生約 200 名を抱える京田辺キャンパス最大のボランティア団体です。地域に根ざした活動として竹林整備活動や、経済的に恵まれない子供達に勉強を教えるスタディサポートや子ども食堂をしています。その他にも、奈良での農作業の手伝いや祭りの手伝いなど幅広い分野で活動しています。月一回開かれるクラブ会では、自身や社会問題について見直す機会を設けています。環境保護や地域活性化など活動分野が幅広いため、会員一人一人にあった活動が見つかります。

【メッセージ】

文化情報学部文化情報学科3年次生 笹倉 直子

私たちの団体は約 200 人の会員が在籍していることを強みに、様々な視点から社会問題に挑戦しています。会員一人一人の「挑戦してみたい」、「やってみよう」という気持ちを尊重した活動を意識しており、活動を通して自分を大きく成長させることができる団体です。



たなっぷす

活動内容

「地域団樂＝その地域の誰もが地域のことを居場所に感じ、談笑しあえる状態」を実現させることを目標に活動しています。目標を実現するために、地域が運営しているイベントを手伝い、またイベントを企画しました。具体的にはスポーツフェスタや文化祭の運営、地域の方々や学生をつなぐイベントの企画、地域の安全を守りながら運動ができる夜回りジョグを立ち上げました。



【メッセージ】

政策学部 政策学科3年次生 乾 由乃

今、「近所の人の名前を知らない」「話したこともない」という学生も多いと思います。それでも生きていける…けど寂しい。煩わしい時もあるけれど、人とかがかわれるのってあったかい。そういう想いから「たなっぷす」は活動を始めました。

 同志社大学 学生支援センター
ボランティア支援室

開室時間 9:00~17:00 (平日)

HP <http://volunteer.doshisha.ac.jp/>



今出川校地

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
室町キャンパス寒梅館1F

Tel(075)251-3236 Fax(075)251-3099

Mail ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

京田辺校地

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3
京田辺キャンパス多目的ホール(ハローホール)

Tel(0774)65-6777 Fax(0774)65-7421

Mail jt-volun@mail.doshisha.ac.jp